

1 「霊山」英彦山

英彦山は北岳(1192M)・中岳(1188M)・南岳(1199.6M)の三つの山頂を持ち、福岡県内では釈迦岳(1231M)に次ぐ標高を誇る。山域は福岡県と大分県の県境未確定地域となっている。山の中腹 500m 近辺に英彦山神宮奉幣殿があり、多くの参拝客が訪れる。山頂には上宮がある。2005年(平成17年)10月には、英彦山神宮へ続く参道沿いに、参道起点の銅の鳥居横から英彦山花公園を經由して参道終点の英彦山神宮奉幣殿へ至る全長 849m のスロープカーが完成し、英彦山神宮奉幣殿まで約 15 分で行けるようになった。



英彦山は羽黒山(山形県)・熊野大峰山(奈良県)とともに「日本三大修験山」に数えられ、山伏の坊舎跡など往時をしのぶ史跡が残る。英彦山の開山は、継体天皇の 25 年(531年)北魏の僧善正上人の入山に始まる。さらに日田藤山村の恒雄が善正に師事して忍辱上人と称し、彦山霊仙寺の基となる草庵を開いたと伝えられている。この霊仙寺は明治の神仏分離までは、天台修験の別格本山として栄えていたが、以降旧境内地が英彦山神社となった。現在、霊仙寺の法灯を受け継ぎ、新たに霊泉寺として復興して、銅鳥居のすぐ右側にある。神話では天照大神の子が来臨して鎮座したので「日子山」となったといわれている。平安時代の弘仁10年(819年)、法蓮上人が嵯峨天皇の勅令で上洛し、日子山を「彦山」に改め、七里四方に及ぶ寺領を賜る勅願寺になる。

その後、鎌倉時代までに 49 の窟が整備され(「彦山流記」1213年)、山伏の修業が盛んになる。室町時代になると英彦山は、神事色が強まり、峰入りという修験道独特の修業が始まるようになった。英彦山より、宝満山、福智山に出て、得度を積む修業が始まった。

戦国時代になると、各大名は血族を彦山座主に据えようと争いがおこり、特に豊後の大友宗麟との確執が大きく、多くの堂宇が焼き払われてしまった。その後、豊臣秀吉の九州平定の折に、七里四方の神領すべてを没収されてしまった。

江戸時代に入ると、小倉藩主細川忠興や佐賀藩主鍋島勝茂らの各地大名から多大な庇護を受けた。参道にある銅鳥居は寛永14年(1637年)にその鍋島勝茂によって建立された青銅製の鳥居である。鳥居正面の「英彦山」の扁額は享保14年(1729年)に霊元法皇によって下賜されたものであり、このときに「英」の字をつけた「英彦山」と称されるようになった。

2 大会コースのルートガイド 太字下線は主要地点

● 1日目：鷹ノ巣山一ノ岳（サブザック チーム行動）

英彦山青年の家を出発し九州自然歩道に入ると、右の方が別所駐車場、左の方が豊前坊になっているので左に進む。この自然歩道の区間はヒノキも混じるが大半はスギの植林地帯となりこの中を歩く。途中車道に降りる場所があるがそのまま自然歩道を歩き途中から石畳の歩道となっていく。歩道の終点から車道に出る。この車道は国道500号線であり時折車も通行するので注意して通行しよう。国道500号線に出ると間もなく豊前坊（高住神社）に到着する。駐車場にはトイレがある。また、サクラの開花時期やイロハモミジの紅葉時期は非常に混雑する。右側の高住神社方面に進むとそのまま登山道になり北岳へと向かう。今回は薬師峠方面に進むのでそのまま国道を進もう。車道の脇にはマツカゼソウやナガバヤブマオが多くみられ、これらはニホンジカが全く食べないため急速に増加している。しばらく歩くと左に県道451号線があり、これは油木ダム方面に行くので間違えないように右方向の国道を進む。（右の写真）この辺りからはビュート地形が特徴的な鷹ノ巣山が目の前に見え、登行意欲をそそられる。その先すぐ左側に数台止められる駐車場があり、道を挟んで右側にコンクリートで舗装された林道がある。ここまで国道を歩いてきたが、英彦山青年の家からここまでの道は九州自然歩道に指定してある。ここで、その九州自然歩道と別れ、右の林道へと入る。（右の写真）車が通行できないようにゲートがあるのでゲートの脇から進んでいく。この付近はススキやサンショウが点在しており、舗装路を進んでいくと左に鷹ノ巣山へと登る薬師峠登山口があるので、その山道に入る。しばらくスギの樹林帯の中の尾根を進むと巻道との分岐に着く。（右の写真）ここでは直進して鷹ノ巣山一ノ岳への急登を進む。戻ってくるときは右側の巻道からこの地点にたどり着くことになる。登り始めると、途中にロープがかけられている岩場などがあるので、落石や滑落に気を付けて登ろう。最後まで登りきると、三角点のある鷹ノ巣山一ノ岳に到着する。登山口と異なり、山頂付近はミズナラやヤブツバキなどの自然林が広がっている。登りは急であったが、下りも急なので、滑



県道451号線との分岐



九州自然歩道と別れる



巻道との分岐

は直進して鷹ノ巣山一ノ岳への急登を進む。戻ってくるときは右側の巻道からこの地点にたどり着くことになる。登り始めると、途中にロープがかけられている岩場などがあるので、落石や滑落に気を付けて登ろう。最後まで登りきると、三角点のある鷹ノ巣山一ノ岳に到着する。登山口と異なり、山頂付近はミズナラやヤブツバキなどの自然林が広がっている。登りは急であったが、下りも急なので、滑

落しないよう慎重に下ろう。下りきった鞍部が**巻道分岐**である。(右の写真)ここを直進すると、二ノ岳、三ノ岳と縦走できるが、今回は縦走せずに右へと曲がり二ノ岳方面より来た巻道へ合流する。巻道に入ってからトラバース気味に戻っていき、前述の分岐で、来た道と合流する。ここからは来た道に戻るだけなので、道に迷うことはないと思うが、**薬師峠**へのショートカットの道などもあるので、間違えてそのような道に入らないようにして**薬師峠登山口**へと戻ってほしい。ここまで戻ってくれば、あとは舗装道路と九州自然歩道なので安心であるが、最後まで気を抜かないよう歩いてもらいたい。**豊前坊**を経て、**英彦山青年の家**に戻ることになる。



巻道分岐

● 2日目：英彦山青年の家から南岳へ（メインザック 隊行動）

英彦山青年の家を出発すると、しばらくは昨日と同じルートである。よって、**豊前坊**を経て、**薬師峠登山口**までは省略する。**薬師峠登山口**を1日目とは異なり、そのまま進むと切り通しされた**薬師峠**に到着する。ここを下っていくと右側に裏英彦山登山口の看板が小さく見あるので、見落とさないように注意して裏英彦山道に入ろう。最初はスギの植林地帯を歩く。登山道にスギの倒木があり迂回しながら進むので、ルートから外れないように確認しながら進んでいく。しばらく登っていくと、スギからヒノキの割合が多くなっていくので違いが確認できる。また、後ろを振り返ると鷹ノ巣山が見えてくる。スギ・ヒノキの植林地帯を過ぎると、ミズナラやシロモジ等の自然林になってくる。一旦尾根に出て進むとすぐに直線の尾根線上に**北岳分岐**が現れるが、左方向にトラバースしてケルンの谷方面へ進む。ここからは見事な自然林の中を、谷と尾根の張りだしを繰り返してトラバースしながら進んでいく。特にブナ・モミ・ツガの大木が圧倒的な存在感を出している。足元は時折岩場となっており、浮石の可能性もあるので声を掛けあいながら進もう。しばらく歩くと、山とは反対側に登山道が左にカーブしている。ここを曲がるとすぐに右下方面にケルンの谷まで下りとなる。歩行中に落石しないよう、もし落石させたり落石に気づいたら「ラク！」の掛け声で周囲に知らせる事。谷までたどり着いたら名前の通りケルンがいくつもあり**ケルンの谷**の看板が設置されている。看板の後ろの大岩から生えているシオジが印象的だ。他にも3枚の小葉がつくミツデカエデも見られる。



ケルンの谷

ケルンの谷を通過すると再び登りになる。こもりみず籠水峠方面へと進んでいくが、すぐに分岐となり、右側の沢の方へ進む。沢を登っていくと2つ沢の出会いとなる。ここを右側の沢に沿

うように登っていく。登りつめると急登が緩やかになり，辺りにはツクシシクナゲやアブラチャンの群生が広がっている。このまま中岳と南岳の鞍部を目指して進んでいくが，最後の登りが今回の最大の急登となるので最大限の注意を払って登る。また，足元にはアザミが群生しており，不用意に手をつくるとトゲで怪我するので注意して欲しい。急登を登りつめると中岳と南岳の鞍部に到着する。尾根筋にはブナ・アブラチャン・ムシカリが目を引き。右が中岳，左が南岳となっているので左に進む。すぐに左に逸れる迂回路があるが，山頂に向かうのでまっすぐ登っていく。登り始めると，これから令和 7 年度まで改修予定の上宮が後方に見える。そのまま登りつめると**英彦山南岳**となる。南岳は英彦山の最高峰で1199.6mあるが，木々に囲まれていて展望はあまり望めない。以前はすぐ下に展望台があり，それに上がると周囲の山々を見渡せたが，現在は撤去されてコンクリートの基礎だけが残っている。

南岳からは材木石方面へ下っていくが，鎖場を数カ所通過したところで左側から山頂迂回路と合流する。この後も鎖場を通過するので慎重に進んでいく。鎖場の部分は展望が開けており，正面に岳滅鬼山・岳滅鬼岳の稜線がよく見える。鎖場通過後は右側の谷側がよく見え，紅葉の時期は素晴らしい景色である。さらに進んでいくと，春には白い花が登山道を覆いつくすように咲いているハイノキが群生している。ここを下ると一度展望がよい岩場横を通過する。この岩場からは下方向に馬の背やスギ・モミの巨木が見える。余裕があればぜひ見てほしい。ここを通過すると目の前に大きなスギが現れる。横を通過してさらに進むと**材木石**に到着する。材木石はマグマが急に冷えて固まったときにできた安山岩の柱状節理で，材木を積み重ねたように見えることから，このように呼ばれている。この付近はガレ



材木石

場となっており，ここも落石に注意して進む。ガレ場を過ぎるとハウノキやイヌブナなど植生が少しずつ変化していく。また，ミヤマクマワラビも点在している。右側に三呼峠分岐が現れるが，一つ目は通過して直進すると2つ目の三呼峠分岐となる。直進すると200m先に鬼杉があるが，今回はここで右折する。馬の背の脇の鎖場と岩場に刻んでいるステップを使ってあがっていき，ピークにたどり着くと**大南神社**が目の前に現れる。大南神社から右手へ細いトラバースに設置された木道を進んでいくと，先程の1つ目の三呼峠分岐からきた道と合流する。ここを左折しアップダウンを数回繰り返しながら三呼峠，衣が池，四王寺の滝分岐，世界最大の梵字岩分岐を通過する。この区間の植生はスギの植林地帯やモミ，ツガがある。**三呼峠分岐**に到着すると左が玉屋神社方面で



大南神社

右が奉幣殿方面となっているので右に進む。虚空蔵分岐や九大生物研究所分岐を通過し進んでいくと前方に奉幣殿が見えてくる。この付近の植生はイチョウが目立つ。石の階段の踊り場に到着すると、右への登りが中岳上宮方面で、左に下るとすぐに奉幣殿である。左にくだって**奉幣殿**に到着する。階段の左側にはツクシシャクナゲ、その先に天ノ水分神と呼ばれる湧水、池の奥にはヒコサンヒメシヤラ、さらに奥がスロープカーの終点となっている。

奉幣殿を回り込むように右に曲がって下っていくと、英彦山修験道館がある。この付近は春にはミツマタの花が咲いていたが、現在は名前の通り枝が三又に分かれているのが特徴的で見つけやすい。またイロハモミジの紅葉も今大会中に見られる可能性がある。そのまま進んでいくと、再び歩道に入りスギの植林となる。一度車道を横断し左前の登山道へ進む。そのまま進んでいくと鷹巣高原ホテルの下を通過する。さらに少し下ると、分岐があり、直進別所、右折鷹巣原駐車場となっているので右折する。しばらく進むと正面に**鷹巣原駐車場**が現れる。ここから右方面に登り、車道を横断して再び登山道に入る。登っていくと再び車道を横断し、左前方へ20m程車道を歩くとここから登山道になる。右手に英彦山野営場を見ながら進んでいくとススキの草原、英彦山青年の家のバンガロー、右のバードライン分岐を通過し、**英彦山青年の家**に到着する。

3 荒天対策

11月5日に起こった場合

	地震(震度5弱以上)	台風・気象警報以上	大雨注意報 雷注意報発表時
11月5日	大会中止 早期帰還準備	宿泊所待機 行動中止	通常行動
11月6日	帰宅完了	通常行動	通常行動

11月6日に起こった場合

	地震(震度5弱以上)	台風・気象警報以上	大雨注意報 雷注意報発表時
11月6日	大会中止 早期帰還準備	行動中止 早期帰還準備	通常行動



英彦山神宮 奉幣殿